

## 世界の年平均気温が歴代 3 位となる見込み

～2017 年（平成 29 年）の世界と日本の年平均気温（速報）～

- 2017 年の世界の年平均気温偏差（速報値）は、1891 年の統計開始以来、第 3 位の値となる見込みです。
- 2017 年の日本の年平均気温偏差（速報値）は、1898 年の統計開始以来、第 10 位の値となる見込みです。

気象庁では、地球温暖化の実態を把握するため、世界及び日本の気温の経年変化を監視しています。

2017 年の世界の年平均気温偏差（速報値）は $+0.39^{\circ}\text{C}$ で、統計を開始した 1891 年以降で 3 番目に高い値となる見込みです。また、2017 年は世界の平均気温を上昇させる傾向があるエルニーニョ現象が発生していない年の中では最も高い年となる見込みです。世界の年平均気温は、長期的には 100 年あたり  $0.73^{\circ}\text{C}$  の割合で上昇しています。

2017 年の世界の年平均気温が高くなった要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響と自然変動の影響が考えられます。

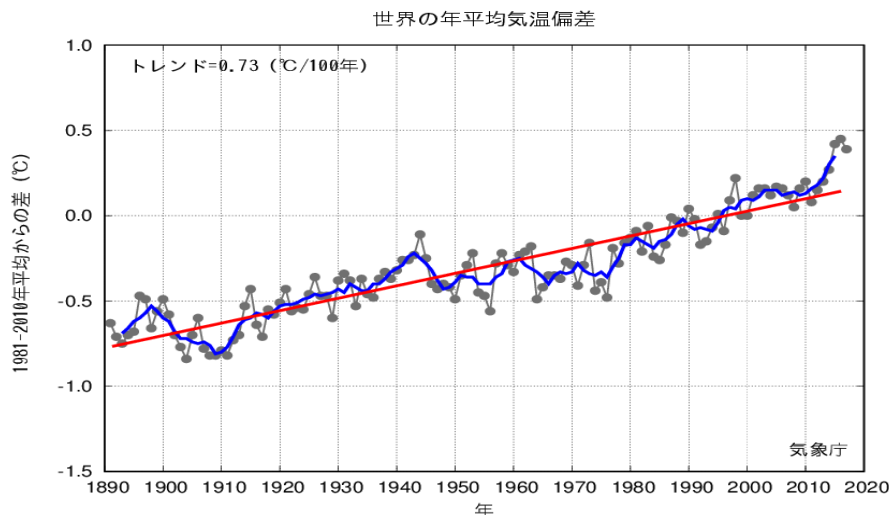


図 世界の年平均気温偏差の経年変化（1891～2017 年）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の 5 年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は 1981～2010 年の 30 年平均値。ただし、2017 年は 1～11 月の期間から算出した値（速報値）を用いている。

※ 確定値は、日本については平成 30 年 1 月初め、世界については平成 30 年 2 月初めにホームページ（下記 URL）で発表します。

<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

問い合わせ先：地球環境・海洋部 気候情報課

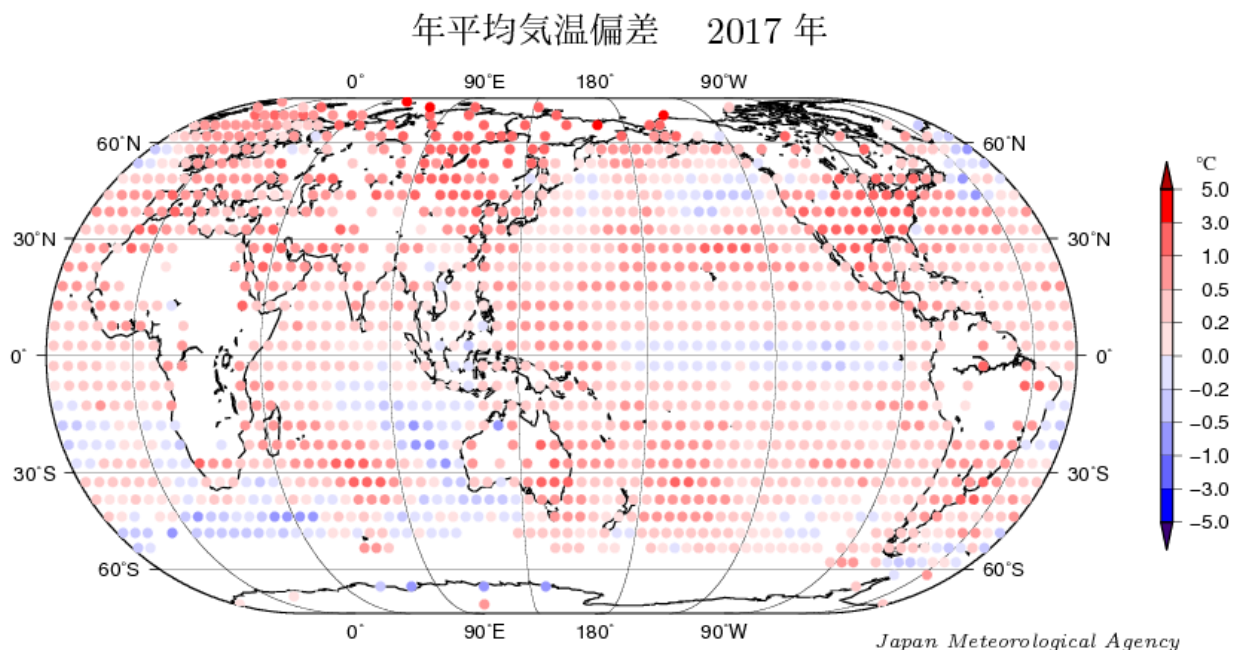
電話 03-3212-8341（内線 2264） FAX 03-3211-8406

## 2017年(平成29年)の世界と日本の年平均気温(速報)

### 世界の年平均気温

2017年の世界の年平均気温偏差(1981~2010年の30年平均値からの偏差)は+0.39°Cで、統計を開始した1891年以降で3番目に高い値となる見込みです。2017年はエルニーニョ現象が発生していない年において、最も高温となりました。エルニーニョ現象が発生すると、それにやや遅れて世界の平均気温が上昇する傾向があり、歴代1位の2016年と歴代2位の2015年にはエルニーニョ現象が発生していました。なお、エルニーニョ現象が発生していない年の中でこれまで最も高温だったのは2013年(+0.20°C)です。世界の年平均気温は、長期的には100年あたり0.73°Cの割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています(報道発表資料図)。

2017年の地域別の気温では、ユーラシア大陸、北米大陸、北太平洋など、広い範囲で高温となりました(図1)。また、2017年の月別では1~11月は歴代3位以内、季節別でも全ての季節で歴代3位以内となりました。



図中の丸印は、5°x 5°格子で平均した1981-2010年からの偏差を示す。

図1 2017年の年平均気温偏差の分布図(速報)

各観測点の2017年の年平均気温偏差(1~11月の期間から算出した値)を緯度、経度5度の領域ごとに平均した値で示す。

### 日本の年平均気温

2017年の日本の年平均気温偏差(1981~2010年の30年平均値からの偏差)は+0.38°Cで、統計を開始した1898年以降で10番目に高い値となる見込みです(第1位は2016年の+0.88°C)。日本の年平均気温は、長期的には100年あたり1.20°Cの割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が多くなっています(図2)。

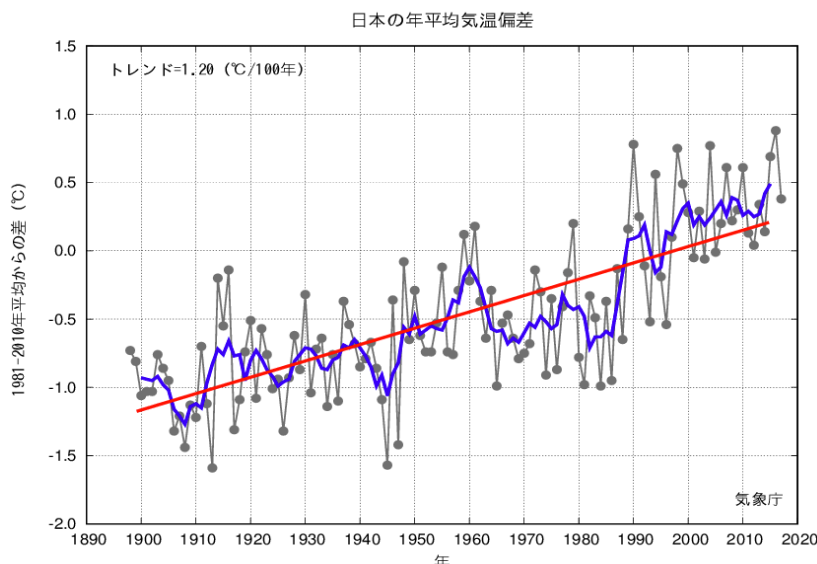


図2 日本の年平均気温偏差の経年変化（1898～2017年）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は1981～2010年の30年平均値。ただし、2017年は1～11月の期間から算出した値（速報値）を用いている。なお、日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響が小さく、特定の地域に偏らないように選定した15地点（※）の気象台等の観測値を採用。

※ 網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

### 年平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響が考えられます。また、世界と日本の平均気温は、年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動の影響も受けて変動していると考えられます。

### 参考：世界と日本の年平均気温の順位（上位10位まで）

2017年の世界と日本の年平均気温偏差は、1～11月の期間から算出した値（速報値）を用いている。

世界			日本		
順位	年	気温偏差 (°C)	順位	年	気温偏差 (°C)
1	2016	+0.45	1	2016	+0.88
2	2015	+0.42	2	1990	+0.78
<b>3</b>	<b>2017</b>	<b>+0.39</b>	3	2004	+0.77
4	2014	+0.27	4	1998	+0.75
5	1998	+0.22	5	2015	+0.69
6	2013	+0.20	6	2010	+0.61
	2010	+0.20		2007	+0.61
8	2005	+0.17	8	1994	+0.56
9	2009	+0.16	9	1999	+0.49
	2006	+0.16	<b>10</b>	<b>2017</b>	<b>+0.38</b>
	2003	+0.16			
	2002	+0.16			

※ 世界の平均気温偏差の算出方法については、以下のページをご覧ください。

[http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/clc\\_wld.html](http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/clc_wld.html)